

平成20年度施策評価シート

第4期石狩市総合計画(戦略計画)における位置付け			1次 評価者 (主に当該施策を担当する部長)	所属	市民生活部
めざすまちのテーマ等	4 豊かな自然を守り育て活かすまち			職名	部長
施策項目	(3)資源循環型社会の実現	施策コード	氏名	氏名	川又 和雄
		403		TEL	72-3247

1 施策の目的

市民・事業者・行政の適正な役割分担と連携により、ごみの3R【リユース(再利用)、リデュース(発生抑制)、リサイクル(再生使用)】などを推進するとともに、不法投棄の防止につとめ、環境に配慮したまちをめざす。

2 現状

これまで、ごみの減量化と分別排出の徹底、リサイクルの促進と再資源化を進めてきた。特に、家庭から排出されるごみについては、平成18年7月に「粗大ごみ」、10月に「一般ごみ」を有料化した結果、有料化前の平成17年度と比較すると30%を超える減量化が実現された。今後は、増加する事業所系ごみの減量化対策を積極的に進めるとともに、排出されるごみ等については、リサイクルも含め適正に処理を行うことが必要である。また、厚田区の山間部や石狩湾新港地域などへのごみの不法投棄防止対策についても、さらに取り組みが必要となっている。

3 成果指標

	指標の名称					単位	H17実績値	H23目標値
指標1	家庭系ごみ処理量					t/年	15,107	14,700
指標2	家庭系ごみの資源化率					%	16.6	21.4
指標3	事業系ごみ処理量					t/年	3,973	1,400
指標4								
	H18実績値	H19実績値	H20実績値	H21実績値	H22実績値	達成度: H19実績値 / H23目標値	参考: H19実績値 / H17実績値	
指標1	15,547	10,071				到達	向上	
指標2	19.4	27.4				到達	向上	
指標3	4,246	4,741				未達	低下	
指標4								

4 1次評価(部長評価)

(1) 成果指標の目標値の達成状況とその要因分析

【指標1】平成18年の家庭系ごみの有料化により、目標を平成19年度にクリアした。【指標2】平成18年の家庭系ごみの有料化時に資源物として排出されるごみは無料としたことから、資源物の分別と排出の徹底が行われたことにより、平成19年度に目標をクリアした。【指標3】事業系ごみは企業の進出とともに増加が進み目標達成には厳しい状況にある。

(2) 目標値の将来の達成度の見込み

成果指標のうち、事業系ごみについては、ごみ排出状況の把握・分析を行うとともに、石狩湾新港後背地の企業等に対して、ごみの排出抑制やリサイクルへの取組みを進めるよう要請するものの、23年度の目標値1400tの達成は難しいものと考えられる。

(3) 今後の課題

家庭系ごみ排出量の回帰(リバウンド)抑制。オフィス活動と関連するが、事業系ごみの排出抑制策の展開。

(4) 注力と今後の取り組み方針

注力	今後の取り組み方針
:これまで以上に力を注ぐ :これまでどおり力を注ぐ :これまでのようには力を注がない	平成20年度スタートの「第2期ごみ減量化計画」に基づき、ごみの発生抑制からリサイクルまでの「4R」を推進する。特に、事業系ごみについては、事業所との協働で減量化に取り組む。

(5) 関連する事務事業のあり方

ごみの発生抑制、再利用の観点から、各種リサイクル事体のあり方について検討が必要である。



ここまで1次評価者が記載した上で、パブリックコメントを実施し、市民意見を募集します。

5 中間報告に対する主な市民意見

なし

6 最終評価（石狩市行政評価委員会評価）

(1) 観点別評価

評価項目		評価
達成度	成果指標の目標の達成(進捗)状況	B
有効性	施策に関連する事業の有効度	B
効率性	費用対効果	B
妥当性	施策の取り組み姿勢	B
総合評価		B

評価基準			
A	B	C	D
極めて高い (極めて順調)	高い (概ね順調)	低い (余り順調でない)	極めて低い (順調でない)
極めて高い	高い	低い	極めて低い
極めて高い	高い	低い	極めて低い
極めて高い	高い	低い	極めて低い
極めて良好	良好	良好と言い難い	問題がある

(2) 今後の方向性に関する委員会意見

ごみの減量化および再資源化は「資源循環型社会の実現」を図る上で重要なことである。家庭系ごみ排出量の減量化やリサイクル率の向上などにおいて一定の成果を上げているが、今後はより高い目標をにかけて今まで以上に施策を推進する必要がある。その際重要なことは市民への啓蒙啓発と効率性（費用対効果）および事業系ごみの減量化である。ごみの減量化や分別および再資源化を推進するためには市民の理解と協力が必要であり、関係部署が密接な連携を取り市民に対してわかりやすく啓蒙啓発活動を進めて行くことを期待する。次に、この施策に投入される行政資源の大きさを十分考慮し、より一層の効率化を図って欲しい。最後に、事業系ごみについては抜本的な方策を考え減量化を推進することを期待している。

(3) 施策等に関する評価意見

（施策）

「達成度」に関しては、家庭系ごみ排出量が着実に減量化していることなど高く評価できる点があるが一方ではかなり低い達成度の事業もあり、総合的に判断して「B」と判定した。「有効性」と「効率性」については、プラスチックリサイクルや資源回収団体奨励、ごみ処理事業、いしかり・ごみへらし隊などの事業は高く評価できるが、市民の理解を得るための啓蒙・啓発活動等において十分でない点を感じられ「B」評価とした。施策の取り組み姿勢である「妥当性」は良好と考え「B」とした。よって、総合評価は「B」と判定したが、個々の事業においては課題も多く見られる。

（事業）

ごみの発生抑制と排出抑制のしくみづくり
 ・プラスチックリサイクルやみどりのリサイクル、ミックスペーパーの回収などはごみの減量化と資源有効利用の観点から有意義な事業である。家庭系ごみについては、市民意識の高まりもあり排出量の減量化と資源物の分別等が順調に推移していることが高く評価できる。ただ、ごみの排出量と資源化率が平成23年度の目標値をすでにクリアしたとしているが、今後はより高い目標値を念頭において施策を推進して行くことを期待している。

・廃食用油BDF化は市民の環境意識を喚起する意味で有意義であるが、回収方法などでさらなる改善が必要である。
 ・ごみの減量・再資源化においては市民の理解が極めて重要である。啓蒙啓発活動は関連する「リサイクルフェスタ」や「いしかり・ごみ減らし隊」などの事業と集約化し、市民にわかりやすく訴えて行く必要がある。例えば、ごみの行方やリサイクルの流れなどと必要経費や収入などを示して図示することなどもひとつの方法である。

・資源回収団体への奨励事業は一定の効果があつた。今後はミックスペーパーの回収も含めてより適切な集団資源回収システムを構築して欲しい。
 ・事業系ごみは年々増加しているが、減量化に向けて何らかの抜本的な施策を講じる必要がある。

資源循環型ごみ処理体制の確立

・ごみの有料化によってごみ排出量が着実に減少しているが、ごみの収集運搬や処理のための経費は莫大であり今後はさらなる効率化が必要である。将来的にはセンターの第三者委託の検討も必要であろう。
 ・リサイクルプラザでは回収資源物の分別と商品化が行われ一定の成果を上げているが、より効率的な運営が期待される。

不法投棄防止対策における連携強化

・大都市近郊のまちとして廃棄物不法投棄の防止は重要であり、石狩管内の関係機関と連携して具体的な対策を講じる必要がある。

し尿処理体制の整備充実

・し尿や浄化槽汚泥の収集運搬および適正処理は今後も欠かせない事業である。除去汚泥の肥料としての利活用は今後も継続すべきである。